

会 議 録

1 会議名	令和6年度 第1回 南砺市立図書館協議会
2 議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告事項</li> <li>(1) 南砺市立図書館の概要について (組織体制、職員の配置)</li> <li>(2) 南砺市立図書館の状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和4年度 富山県内公立図書館の状況について</li> <li>② 令和5年度 利用状況について</li> <li>③ 令和5年度 蔵書の状況について</li> <li>④ 令和5年度 図書館主催事業について</li> <li>⑤ 令和5年度 なんと！バースデーブック事業の申請状況について</li> <li>⑥ 第4次南砺市子ども読書活動推進計画進捗状況について</li> <li>⑦ 令和6年1月1日能登半島地震の被害状況について</li> <li>⑧ 新システム導入セレモニーについて</li> </ul> </li> <li>(3) 令和6年度 南砺市立図書館運営計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 図書館予算について</li> <li>② 自主事業について</li> <li>③ なんと！ぐるっと巡回本について</li> <li>④ 雑誌スポンサー制度の実施状況について</li> </ul> </li> </ul>
3 開催日時	令和6年6月27日(木) 午前9時27分から午前10時29分
4 開催場所	南砺市役所 別館3階 大ホール
5 出席者	<p>南砺市立図書館協議会委員 出席9名/全11名</p> <p>委員：武田和一、岩井透、唐嶋田鶴子、干場健、高田篤志、野村由佳里、前田悟志、川田真紀、山下美紀</p> <p>事務局：教育長、教育部長、教育部次長(教育総務課長)、総合政策部次長(こども課長)、生涯学習スポーツ課長、中央図書館長、中央図書館館長補佐、中央図書館副主幹、中央図書館司書</p>
6 欠席者	嶋田充宏、西野真夫
7 傍聴者	無し
8 議事内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会 保市図書館長</li> <li>・ 開会あいさつ 武田会長</li> </ul> <p>3月末からデジタル化して、様々なサービスが利用可能になった。今後も皆さまの意見を取り入れながら業務がスムーズに進むようご意見をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 任命書の交付 予め机の上に置かせていただいた任命書をもって交付</li> <li>・ 委員の自己紹介 名簿順にて自己紹介</li> <li>・ 事務局の紹介</li> <li>・ 進行 武田会長</li> <li>・ 報告事項</li> </ul>

(1) 南砺市立図書館の概要について説明

事務局：(資料2に沿って説明)

南砺市立図書館は、中央図書館と4つの地域館、3つのサービスコーナーで運営している。図書館5館に30人の職員が配置されている。今年度、「なんと！ぐるっと巡回本サービス」が始まり、その車を運転する会計年度任用職員が3名増えた。

(2) 南砺市立図書館の状況について

i 令和4年度 富山県内公立図書館の状況について

事務局：(資料3に沿って説明)

南砺市は、黄色で塗りつぶしてあるところ、「住民1人当たりの令和4年度の図書館費」「住民1人当たりの令和4年度末蔵書冊数」が県内の市でトップである。

「職員1人当たりの人口」は3番目、「住民1人当たりの令和4年度図書館費」「年間購入図書冊数」は2番目、「住民1人当たりの令和4年度貸出図書冊数」「個人貸出登録率」は4番目で、「個人貸出登録者1人当たりの冊数」は7番目である。

個人貸出について、これまで南砺市は、図書館利用者登録は削除していなかったが、システム改修により、3年利用がなければ登録者としてカウントしないので、今後、一旦登録率は減ることになる。

ii 令和5年度 利用状況、iii 令和5年度 蔵書の状況について

事務局：(資料4、資料5に沿って説明)

令和6年3月11日～3月25日まで、新システム更新のため臨時休館した。入館者数や貸出冊数は減少傾向で、人口1人当たりの貸出冊数は5.0冊であるが、今後、本の巡回本サービス等の利用を促進し、利用率の向上を図っていく。

蔵書冊数は、資料のIC化に伴い、全館で複本等14,178冊を除籍した。今後も計画的に除籍を行い、利用者が手に取りやすい本の配置や、適切な資料構成を心がける。

iv 令和5年度 図書館主催事業について

事務局：(資料6に沿って説明)

令和5年度は、新システム更新の準備とこれまで行っている事業を継続した。新たな高等学校と市立図書館との連携事業として、南砺福野、南砺平高等学校に読み聞かせ講師を派遣し、講習会を開催した。その後、高校生は、地域の保育園や小学校で読み聞かせを実施した。

v 令和5年度なんと！パースデーブック事業の申請状況について

事務局：(資料7に沿って説明)

令和6年3月31日現在の該当人数227名中171名の申請があり、申請率は75%である。令和5年度生まれの申請数は6月30日に確定し、198名の申請で、申請率は87%である。

VI 令和5年度事業第4次南砺市子ども読書活動推進計画進捗状況について

事務局：(資料8に沿って説明)

令和5年度事業について、顕著な部分をご報告する。

①子どもの発達段階に応じた読書活動の推進 基本施策 ア 乳幼児期における読書活動の推進

令和5年度からスタートした「なんと！バースデーブック事業」は、実績値0.75となっている。今後も、事業の周知を図り、多くの児童に絵本をプレゼントして、親子で本に親しむ機会を作っていく。更に申請率を上げる手段も考える。

また、高等学校と市立図書館の連携事業として、図書館研修や読み聞かせ研修を行い、高校生による保育園等への読み聞かせを実施した。

②市立図書館における子どもの読書活動の推進 基本施策 カ 図書館ネットワークの強化

令和5年度、市立図書館と学校図書館の共通システムを導入し、システムから本の予約が可能となった。今後、市立図書館と学校図書館との情報共有や連携強化のため、オンライン会議や南砺市型司書モデル事業を実施する。

③学校における子どもの読書活動の推進 基本施策 エ 学校図書館の蔵書管理システム化

令和5年度、市内全小・中・義務教育学校に新システムの導入により、市立図書館との共通システム化も図った。また、読んだ本の履歴が一目でわかる読書シールの発行も可能になった。今後は、システムを活用し、蔵書の充実や利用率の増加を図る。

VII 令和6年1月1日能登半島地震の被害状況について

事務局：(資料9に沿って説明)

能登半島地震の被害について、南砺市立図書館5館の現状確認を1月1～2日に確認した。被害状況は、福野を除く4館で本の落下を確認した。福野図書館で書庫の文化財が落下し、箱の破損を確認した。他市に比べ、被害が少なかったため、新年の開館初日1月4日から通常通り開館した。改めて、館内放送で注意喚起や避難誘導の確認等も行った。

## VIII 新システム導入セレモニーについて

事務局：(資料10に沿って説明)

新システム導入セレモニーを令和6年3月26日(火)午前9時30分から行った。来賓に、市議会議員、市教育委員、市図書館協議会委員13名に参加いただいた。また、テレビ局や新聞社等の取材があり、県内でも広く周知していただいた。

### (3) 令和6年度 南砺市立図書館運営計画について

#### i 図書館予算について

事務局：(資料11に沿って説明)

図書館管理運営費の報酬等は子ども読書活動推進計画策定委員会の報酬と巡回本サービスの運転手の報酬のほか、令和6年度から支給する会計年度任用職員の勤勉手当を計上したため増額している。施設維持管理費等は、令和5年度にセルフ貸出機などを導入した。図書館デジタル化事業が完了したことから大幅に減額している。図書館資料整備費の資料購入関係消耗品等は新システムとの連携機能追加による使用料の分が増額している。その他は昨年度と大きく変わらない。

#### ii 自主事業について説明

事務局：(資料12に沿って説明)

令和6年度は、第5次南砺市子ども読書活動推進計画の策定がある。委員は10名で年3回の会議を行い、計画を策定する。

「南砺市型学校司書モデル事業」は、今年度は市全地域の希望する学校を対象に行う。

図書館デジタル化推進事業によるシステム改修により、オーディオブックや読書記録確認等を利用できるようになり、更に周知を図っていく。

学校との共通システム化に伴い、全児童生徒へ図書館利用カードをプレゼントした。児童生徒はプレゼントされた図書館利用カードで市立図書館を利用している。

#### iii なんと！ぐるっと巡回本について

事務局：(資料13に沿って説明)

市内どこでも、本の貸出と返却ができる「なんと！ぐるっと巡回本サービス」が4月からスタートした。今後は、交流センターの利用促進を図るため、サロン等で周知を図る。

#### iv 令和6年度雑誌スポンサー制度の実施状況について

事務局：(資料14に沿って説明)

図書館雑誌スポンサー制度は、事業者19社、提供雑誌は23タイトル、166,928円の雑誌購入費を負担していただいている。今年度から、雑誌購入費は企業から直接書店へ納入いただくことになり、図書館の雑誌購入費の充実を図ることができるようになった。

●質疑応答・提案事項

委員：除籍した本に郷土資料はあるか。

事務局：郷土資料は基本除籍しない。貸出した際に紛失等現物がなくなった場合に除籍となる。

委員：郷土資料のデータ化はされているのか。

事務局：デジタルアーカイブ化されていない。郷土資料は市内図書館のどこかが必ず所蔵するようにしている。

委員：バースデーブック事業について、申請率向上に向けた方策を考えているか。

事務局：これまで図書館に申請と絵本の受け取りのため2回来館していただく必要があった。今年度からQRコードを使用したオンライン申請も開始し、申請者の利便性の向上を図る。

委員：交流センター等の「なんと！ぐるっと巡回本サービス」の利用状況はどうなっているか。

事務局：現在、サービスに協力いただける交流センターのみ運行している。利用者本人が図書館ホームページから受取場所を交流センターに設定する必要がある等、操作方法が浸透しておらず、利用者が少ない。今後、イベント等で交流センターへ伺ったときに周知していく。

委員：「なんと！ぐるっと巡回本サービス」のPRはどのようにしているか。

事務局：交流センターは地域づくりの総会に出席して説明、学校はテレビの取材など。病院は、ポスターの貼りつけや今後、図書館から説明に行くことにしている。

委員：学校ごとに巡回を利用した実績を定期的に教えてほしい。

事務局：定期的にお知らせする。

委員：「なんと！ぐるっと巡回本サービス」について周知が足りていない。交流センターで周知する場合、交流センターや市の広報誌等で周知していただきたい。

事務局：広報誌で紹介するようにしていきたい。また、配布物は準備している。

委員：QRコードも入れていただきたい。

事務局：市の広報誌に南砺市立図書館ホームページへアクセスできるQRコードを載せている。それ以外のチラシ等にも載せていきたい。

委員：「なんと！ぐるっと巡回本サービス」について、利用率を上げていただきたい。市立図書館や学校図書館を利用し、児童生徒の読みたい本がすぐ傍にある環境を作っていただきたい。

事務局：市立図書館と学校図書館で連携しながら、子どもたちの読書量が増えるよう努める。

委員：大人への支援として、包括支援センター等と連携することはあるか。読書会へのサポートはしているか。

事務局：包括支援センターとの連携は、フレイル啓発による関連図書の掲示を行っている。読書会の高齢化が進み、市内0となった。高齢者への読書支援としてサロン等で読み聞かせを行っている。今後、「なんと！ぐるっと巡回本サービス」を利用し、本も借りていただけるように、交流センターへ周知する。

委員：朗読や本の感想を共有することが認知症予防等に繋がるため、交流センターと協力していただきたい。

事務局：福光地域の交流センターに、郷土の紙芝居を貸し出し、サロンで読み聞かせを行っている。

委員：雑誌スポンサーの周知はどのようにしているか。

事務局：市広報や南砺市ホームページで周知している。

委員：どの企業にどの雑誌を提供いただいているということだけなのか。

事務局：どの企業から、どの雑誌を提供いただいている情報以外に、募集も行っている。

委員：高校生の読み聞かせを増やすことは可能か。また、他の施設や行事とタイアップしてはどうか。図書館事業について施設がもっとPRするべきである。

事務局：検討する。

委員：電子書籍の普及により、図書館の利用が減少しているのではないか。また、利用者の年齢層を把握しているか。

事務局：システム更新によりオーディオブックを導入した。図書館利用の年齢別の利用率は、幼児、中・高校生や20代等が低い。システム更新により、図書館利用のきっかけを作りたい。

閉会のあいさつ 岩井副会長

先日、学校図書館と市立図書館の共通システム化に驚き、羨ましいとお声をいただいた。近隣で近代的な図書館が建ち羨ましいという声もあるが、南砺市は市内全域で同等のサービスを受けられる。しかし、新システムに慣れるには時間がかかるということで、新システムが熟成していくのを楽しみにしたい。